

図書館部報

岡崎市現職研修委員会
学校図書館部
平成30年12月18日
No. 3

どうすれば納豆が食べられるか

岡崎市現職研修委員会学校図書館部
部長 矢作東小学校 清松 治子

これまで、できるだけ内緒にしてきたのですが、私は納豆が苦手です。両親が九州の出身でしたので、私が小さい頃は、我が家では、納豆を見ることすらありませんでした。ところが、ある時、当時小学生だった妹が、「給食で納豆を食べたらおいしかったから、家でも出してほしい」というようなことを言ったことで、我が家の食卓に納豆が登場することになりました。両親と妹は、すぐに納豆の虜になりましたが、私は、どうしても納豆が食べられませんでした。あれから40年近く経ちますが、今でも納豆は受け付けません。納豆好きの友人の中には、「納豆を食べない人生なんて、ものすごく損している」だの「納豆を食べないと、健康に良くない」だのと、私のことを心配しているのか脅しているのか、よく分からないことを言う人もいます。納豆が体に良いことは分かっているのです。分かっているのですが、苦手なものは苦手なのです。

私が納豆を苦手としているように、読書が苦手な子供もいます。本を読むことで得られるものがたくさんあることは、みんな知っています。家の方も、先生も、読書の良さを説いて、本を読むことを勧めます。しかも、学校では大抵、年に何回か読書週間などがあって、たくさんの本を読んだ友達が、先生に褒められているのです。それでも、授業中にやるべきことが早く終わったとき、自由帳に絵を描くことはあっても、本を手には取らない子供は、どこにでもいるものです。さらには、活字を読もうとすると、目がちかちかして、頭痛やめまいがする子供もいます。

だからといって、子供たちに、本に親しむことを勧めなくてよいというわけではありません。本を読むことで、子供たちの世界が広がり、心が豊かになることは明らかなのですから。それではどうするのか。私たちは、それを考えなくてはいけないと思います。興味のある分野の本であれば、夢中で読める子供がいます。自分で読むのは苦手だけれど、読み聞かせは大好きだという子供がいます。ビブリオバトルを経験したら、読書をするようになった子供もいるかもしれません。病院で眼鏡を作ってもらってかけたら、本を読めるようになる子供がいるかもしれません。

私たちは、全体に対して行う読書指導だけでなく、子供の個性に合わせた指導も行うことができるのではないのでしょうか。そのためには、読書の苦手な子供に寄り添い、どうして本を手には取らないのだろう、もしかして読みたくても読めないのかなと考えたり、どんなときに本を手には取っていると観察したりすることが、第一歩のように思います。

私も、納豆が体に良いことは知っているのです。料理の仕方を工夫すれば、私にも食べられるのでしょうか。どなたか、よい方法があれば、教えていただけませんか。

第68次教育研究集会愛知大会に参加して

県教研に参加させていただきました。広い視野をもち、論理的に物事を考えられるようになるため、批判的思考を経て情報を取捨選択する学習段階や、身近な資料が子供たちの内省に生かされる過程が勉強になりました。また、豊かな人間性を培う読書指導では、読み比べにおいて、文化的な背景を感じることができるようさや多読への広がり示唆していただきました。今後は、中学校へのつながりを念頭に、読書量を増やし、小学生のうちに読書の価値に気付かせ、難しい内容でも読もうとする意欲を高めるとともに、発達に応じた調べ学習を充実させていこうと考えることができました。

＜愛宕小学校 近藤 秀子＞

県教研に参加させていただき、児童・生徒が主体的に本に親しみ、図書を活用する授業実践をいくつも知ることができ、大変勉強になりました。知識基盤社会にあって、適切な資料を選択し、情報を収集し、取捨選択する授業を行い、獲得した情報を学習活動に生かして子供同士の対話や深い学びに結び付けようという実践が目を引きました。報告された実践の多くは調べ学習で図書資料を活用しています。児童・生徒の力量にあった選書で、根拠の確かな資料を提供することで子供たちは自信をもって活動し、学びが深まっていくと感じました。図書を活用した生涯学習が生涯読書につながる、読みの力はらせん状に高まっていくので実践の継続が大切との助言をいただきました。

＜大樹寺小学校 松本 友子＞

〈図書館活動紹介〉

本校は、全校児童が34名で、みんな仲良しです。休み時間、運動場で遊ぶ子が多く、図書館はひっそりとしていました。

そこで、本年度、情報委員会の児童がこの事態を打開する策を考えました。それは、学期に1回の読書週間の中で、みんなが図書館に行きたくなる多様な活動を展開することです。

2学期の「くりともみじの読書ウィーク」では、来館した児童のカードにスタンプを押して、しおりをプレゼントしました。また、「読み聞かせ」や「色ぬり」のコーナーも設けました。おかげで、期間中、図書館はみんなが読書活動に親しむ光景が見られました。

〈おすすめの本〉



- 本校では、毎月1回、かじか会のみなさんが読み聞かせを行ってくれます。
- 先日、来校されたみなさんに、どのように本を選んでみえるのかをたずねてみました。
- すると、低学年の児童にはなるべく飽きのこないものを、中学年の児童には「動物とのふれあい」といったテーマや季節を考えたもの、高学年の児童には読み応えのあるものにされているそうです。
- この日は、ちょうど12月ということもあり、かばんの中からクリスマス関連の本を取り出して、見せてくださいました。
- 6年生教室では、『手ぶくろを買いに』（新美南吉作）の本が読まれました。

〈宮崎小 田中 鉄也〉



【今後の主な予定】

1月上旬～2月上旬 第3回SLBA図書注文

1月上旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」チラシ配布・注文

1月下旬 注文締め切り

2月1日 市読書感想文・読書感想画コンクール表彰式（第3回主任会）

2月下旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」発行

